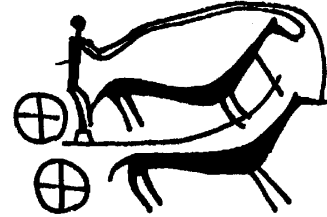


センターニュース

Hokkaido University
Center for Research and Development in Higher Education

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Newsletter No. 35



学生を惹きつけるシラバスに 電子情報化の新たな課題 農学研究科 伊藤和彦 3	大学インターンシップ研究会開催される 12
科目責任者等の選出方法を検討 37回・38回全学教育委員会開催される ... 3	生涯学習計画研究部客員教授に 丸山文裕氏(椋山女学園大学教授) 13
2001年度全学教育科目責任者名簿 5	北大から新しい能力評価方法を 高機能センター 池田文人 13
北大のTAは何をすべきか TA研修会行われる 6	2001年度入学者選抜企画研究部研究員名簿 14
私の理想とするTA像 文学研究科 瀬名波栄潤 7	二カ国語版「コアカリキュラム」 ガイドブックが完成 14
6月7日に新任教官研修会 11	日本高等教育学会第4回大会 新しい大学教育の設計 15
高等教育フォーラム開催される 12	センター日誌・行事予定・編集後記 16

巻頭言 FOREWORD

教養部長とセンター長

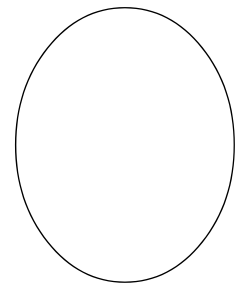
文学研究科教授 南部

“教養部200人教官団”といわれた大部局があっけなく崩壊して早くも6年以上。火曜日の4時からが教養部教官会であった、などということを出せる人は、もう殆どいないのかもしれない。

それにしても不思議な二重組織の部局であった。A教授・B助教授は教養部教官会の正規メンバーなのに、A教授は理学部教授会にも出席する、B助教授は文学部教授会にも出席して学部の委員に任命されたりもする。投票して教養部長や部長補佐2名(評議員)を選出したあと、学部教授会にも出席し、学部長や評議員の選挙にも参加する。本人がそれに選出

されてしまうこともある。文学部長が教養部教官会の^{ひら}平メンバーとして着座していることもあった。

私なども自分の上司は教養部長なのか、学部長なのか、わからなくなることがあった。教養部の委員として多忙だから、という理由で学部の委員を断ったこともある。部局長会議の報告なども2回きくことになるわけだが、どうも教養部長の報告と「ウチの」学部長



の報告が違ふことがある。夫々、別の側面に力点を置いて報告しているらしい。問題になっている事態が立体的に把握できることもあった。

こんな二重組織の教養部は全国の大学でも稀有であったが、面白い仕組であったと思う。そして特に仲が良いわけでもないのだが、確かに「われわれ」という連帯感が存在した。右も左もわからぬ、高校生のような多数の学生たちと相対しなければならないのである。あきれはて、腹の立つこともある。事務官と密接に協力しないと、乗り切れない事態も頻発する。「どうです、今年の新入生?」「大学祭の件、どうします?」といった調子で情報も交換する。かくして教養部は教官と事務官が最も仲の良い部局の一つであった。今でも時々、その集まりがある。そして勿論、「われわれ」は教養部長の指揮下で教養教育を担当しているのだという連帯感を持っていた。

教養部長というのは全く激職であった。「(官制化されていないから)学部長より給料も安いのに、ずっと忙しい。ホントに気の毒だ。まあ助けよう、守り立てよう。」「我々が選んだ部長だからな。」というわけでひとはだ脱ぐ教官も少なくなかった。実際、教養部長は“200人教官団”の長であり、月に一度は議長として教官会議をとりしきっていた。学部サイドに力点を置いた発言には「どちらの立場でモノを言っているのですか。」とたしなめることもあり、堂々とした振舞いからか「元帥」という渾名の人もいた。なかなか立派で個人的に敬愛できる人物もいたし、「あの部長に頼まれたんではイヤとは言えないよ。」と仕事を引き受ける教官もいた。教養部の廊下で部長に頭を下げない教養部教官などいたろうか。

こうして消滅した部局の良かったところばかり思い出して今を見る。全学教育の総指揮官はセンター長(副学長)ということになっているが、その顔と氏名を一致させている全学教育担当教官など何人いるのだろうか。センターの廊下でセンター長に目礼

を送る教官は200人どころか20人もいないであろう。自分たちが選出した長ではないし、全学教育について親しく対話したこともないのだから、無関心になるのも止むを得ないが、今の全学教育に求心力というものが欠けている理由の一つはここにある。中心が何ともボケているのである。全学教育が本当に重要ならば、その中心はもっと明快で存在感のあるものである方がよい。

そこで一つ提案。1年に少なくとも2回、つまり前期と後期に少なくとも1回ずつ、その学期の全学教育担当教官が全員集合する会議を持たないものだろうか。勿論、センター長が議長を務めるのである。「顔」を見せなくては。全学教育の理念くらいはスピーチしてほしい。重要な事項は、この場で質疑・協議するなり、場合によっては決議してもよい。

教養部が解体するころ、今後、1年生に対する授業の名称をどうするか、という議論があった。誰かが「全学共通教養教育」でどうだと言った。私もそれでよいと思ったが、別の誰かが「長すぎる」と反対した。その後生まれた「高等教育機能開発総合センター」よりは舌をかまないし、よく具体的内容を示していたと思うのだが。

ともかく、この「全学共通教養教育」の担当者が各部局に分散し、相互に殆ど交流もなく、一堂に会することもない現状は何とも宜しくない。これでは北大生に共通した教養のための教育を展開しているのだという自覚も生まれ難い。勿論、各部局には担当委員がいて報告もするのだが、これまた各部局ごとに個性的なこともあるらしく、全学的な共通理解が生まれ難かったり、誤解が生ずることもある。かつての教養部教官会にも似た「全学教育担当者会議」が一学期に少なくとも一度はあった方がよい。医学の授業は、医学部教授会が決められている。法学の授業は、法学部教授会が決められている。全学教育の授業は、全学教育の教官会が決めればよいのである。全国でも稀なスタイルを持っていた二重組織としての北大教養部の良さを少々復活させてはどうだろうか。

教務

学生を惹きつけるシラバスに

電子情報化の新たな課題

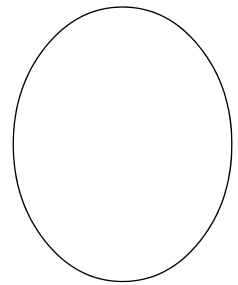
農学研究科教授 伊藤 和彦

本学は総てのシラバス情報を電子情報化させることになりました。シラバス情報の電子情報化に関するWGに参加したメンバーの一人として新しい形態となったシラバスを見ることに大きな期待を感じました。

言うまでもなく、シラバスは具体的な授業計画です。そして学生と教官を結ぶパイプであり、学生はこれを見て自らの学習課題を発見し強い学習意欲を喚起されるものと思います。従って、シラバスは学生のために在るもので、学生がその内容を十分に理解することができるように作成する必要があります。入学直後の学生から大学院学生まで総ての学生に、授業目標、到達目標、授業計画そして評価方法について広く理解してもらう必要があります。そのためにも電子情報化が必要と考えます。

さて、電子情報化されたシラバスを見ての個人的な感想を述べてみたいと思います。教官にとって初めての経験で、戸惑いもあったのか入力に長時間を

要したと聞いておりますが、理解しやすいシラバスが見受けられました。その共通点は学生の立場に立って分かりやすい言葉で丁寧に、具体的に、そして教官の教育に対する熱意が感じられる文章で書かれていることです。一方、必要最小限の情報が載ってはいるが、惹きつけるものをあまり感じられないシラバスも見受けられました。さらに、お叱りを承知で述べさせていただけば、「これがシラバスか?」と思えるものがあることには大いに落胆しました。空欄だらけのシラバスを見た学生がスタート時点で授業に対する学習意欲を失うことを心配します。生意気なものの言い方をしましたが、振り返って自分が提出したシラバスを見て未だ不十分であることに汗顔の極みです。



全学教育

GENERAL EDUCATION

科目責任者等の選出方法を検討

37回・38回全学教育委員会開催される

2月15日(木)に第37回(平成12年度第7回)、3月9日(金)に第38回(平成12年度第8回)全学教育委員会が開催され、つぎのような議題について話し合われました。

< 第37回 >

- 議題1. 北海道大学全学教育科目責任者等に関する要項の全部を改正する要項(案)
- 議題2. 全学教育科目「追加認定試験」についての申し合わせの一部改正(案)

議題3. 「科目等履修生」として全学教育科目を履修する場合の取扱いについての一部改正(案)

議題4. 平成13年度全学教育科目に係るTA任用予定者

報告事項1. 全学教育科目の新授業科目に係わる英文表記

報告事項2. 全学教育科目に係るシラバスの入力状況

科目責任者体制の刷新

議題1では、最初に委員長より、全学教育科目の見直しに伴う科目責任者の体制については、昨年7月25日開催のセンター運営委員会において了承されていること、これを受けて、科目責任者等に関する要項の改正が必要になり、科目責任者の選出母体のことも含めて小委員会で検討したむねの報告がありました。続いて共通教育掛長より、資料に基づいて改正部分の説明、山口小委員長より審議経過等についての説明がありました。それによりますと、要項の主な改正は、第2条の授業科目、第4条の科目責任者の補欠の任期および第7条の技術系職員の指導および助言に関する部分となります。また、第2条第3項に関連して、複合科目の科目担当責任者は各学部部にそれぞれお願いしたこと、平成11年12月15日の評議会確認事項にもとづき、情報メディア教育研究総合センターおよび総合博物館の2部局を独立させて全学教育科目担当責任者を置いたこと、また、第7条は、全学支援体制を整備するなかで、科目責任者会議で出た要望にしたがって、技官体制を整備したものであるとの説明がありました。このあと審議に移り、了承され次回のセンター運営委員会に諮ることとなりました。なお、以下の各議題についてもすべて、了承の後センター運営委員会に諮ることとなりました。

続いて、委員長より、平成13年度予算政府案の内示によって、学内共同教育研究施設の新設および整備がなされることとなっているが、予算決定の際には、先端科学技術共同研究センターを理学部、量子

集積エレクトロニクス研究センターを工学部の選出母体に加え、北方生物圏フィールド科学センターを独立した選出母体として、全学教育担当責任者をおくこととし、要項の別表をそのように改正することについて諮られ、審議の結果了承されました。

「芸術と文学」に応援を

なお、新設の授業科目「芸術と文学」について、安藤委員より、文学部として平成13年度は8コマの非常勤講師を任用しており、負担が過大であるとの声もあるので、この科目はもともと研究部の要望でできた科目でもあり、センターの研究部が実質的に関わるようなシステムを考えてほしいという要請がなされました。

議題2では、委員長より全学教育科目の見直しにより、申し合わせの一部改正が必要となったむねの説明があり、事務側からの改正部分についての説明の後、審議に移り了承されました。

議題3においても、全学教育科目の見直しに伴う一部改正であり、審議のあと了承されました。

議題4では、平成13年度全学教育科目に関わるTAの必要数について了承されたものに基づき、関係部局より推薦のあった予定者のリストを審議し、学部等に獣医学部および遺伝子制御研究所を加えることを確認したうえで了承されました。

シラバス入力98%

報告事項1では、全学教育科目の新授業科目の英文表記について、すでに1月17日開催の全学教育委員会では了承されたものだが、その後、情報処理について、これまでの"Data Analysis"は学問分野としてすでに使われており、"Introduction to Computer"に変更してほしいとの要請があったので、小委員会で検討した旨の委員長の説明につづいて植木委員より報告があり、変更が了承されました。

報告事項2では、全学教育科目に係るシラバスの入力状況は98%程度であり、現在、シラバス未入力の授業担当教官にたいして、担当掛から直接連絡をとり入力を督促していること、また、担当掛で入力

の内容の間違い，不備等のチェックをおこない，修正を行っている旨の報告が委員長よりありました。

また，授業担当教官にたいして，シラバス情報が変更された旨のメールが送信されることとなるため，すでに，各科目企画責任者または担当責任者を通じて，周知方をお願いしていることを各委員においても承知しておいていただきたいとの依頼があり，シラバス入力についての意見交換を行いました。

< 第38回 >

議題 1. 全学教育科目実行教育課程表

議題 2. 全学教育科目の追加

議題 3. その他

1) 学生委員会委員および附属図書館北分

館委員の推薦

報告事項 1. 履修調整に伴う講義室の割り振りに

なお，当日は前出委員長は所用につき欠席され，山口センター長補佐が議長を務めました。

実行教育課程表を了承

議題 1 では，全学教育科目見直しに伴う各学部の規程改正手続きが現在行われており，これに合わせて各学部で全学教育科目実行教育課程表の検討をおこなったうえで提出されたものが資料として配布されていること。この実行教育課程表には，開講期，履修上の細目および進級要件等，各学部で必要と思われる事項が盛り込まれていること。提出されてい

表1 2001 (平成13) 年度全学教育科目責任者名簿

科目責任者の名称	所 属	職 名	氏 名
「健康と社会」企画責任者	教育学部	教 授	森 谷
「体育学」企画責任者	教育学部	"	鈴 木 敏 夫
「思索と言語」企画責任者	文学部	"	中戸川 孝 治
「歴史の視座」企画責任者	言語文化部	講 師	川 寄 義 和
	文学部	教 授	河 内 祥 輔
	法学部	"	今 井 弘 道
「芸術と文学」企画責任者	経済学部	"	田 中 慎 一
	文学部	"	山 田 貞 三
	言語文化部	"	井 上 和 子
「社会の認識」企画責任者	文学部	"	煎 本 孝 晃
	法学部	"	長谷川 晃
	経済学部	"	岡 部 洋 實
「科学・技術の世界」企画責任者	文学部	"	小 野 芳 彦
	理学部	"	杉 山 滋 郎
「心理学実験」企画責任者	文学部	"	阿 部 純 一
「統計学」企画責任者	経済学部	"	長谷川 光
「数学」企画責任者	理学部	"	辻 下 徹
「物理学」企画責任者	理学部	助教授	市 川 瑞 彦
「化学」企画責任者	理学部	教 授	井 川 駿 一
「生物学」企画責任者	理学部	助教授	若 原 正 己
「地学」企画責任者	理学部	"	在 田 一 則
「情報処理・情報科学」企画責任者	工学部	教 授	大 内 東
「図形科学概論」企画責任者	工学部	"	奥 俊 信
「英語」企画責任者	言語文化部	"	竹 本 幸 博
「ドイツ語」企画責任者	言語文化部	助教授	佐 藤 俊 一
「フランス語」企画責任者	言語文化部	教 授	西 昌 樹
「ロシア語」企画責任者	言語文化部	助教授	杉 浦 秀 一
「中国語」企画責任者	言語文化部	"	遊 川 和 郎
「イタリ語等」企画責任者	言語文化部	教 授	古 賀 弘 人
「日本語・日本事情」企画責任者	言語文化部	助教授	山 下 好 孝

任期は2001年4月1日から2003年3月31日まで

る実行教育課程表は、各学部の関係委員会において検討承認されたものであり、開講期等に関して問題がなければ了承することとしたい旨の説明が議長よりあり、意見交換のうえ、了承されました。この全学教育科目実行教育課程表は、「全学教育科目実施の手引き」に掲載されることとなります。

議題2では、国際広報メディア研究科から、第二学期に「人間と文化」の授業科目を追加したいという申し出があったので、お諮りしたいという説明が議長よりあり、国際広報メディア研究科の高橋委員から説明をうけたうえで、審議し了承されました。

議題3では、はじめに議長から、全学教育委員会から各2名を学生委員会委員および附属図書館委員に選出することとなっており、平成13年3月31日を

もって、このうち3名が任期満了になることの説明がありました。次期委員の選出については、この3月末に全学教育委員会委員の任期が満了となる学部があるために、関係部局に委員の選出依頼をおこなっているところであり、学生委員会および附属図書館北分館委員の推薦については、センター長およびセンター長補佐に一任してほしいとの提案があり、審議のうえ了承されました。それぞれの委員については、次回の全学教育委員会において報告することとなりました。

報告事項1では、履修調整のために、大講義室およびS2講義室を使用する授業科目については、小委員会で検討し配布資料のとおりにしたい、という説明が議長よりありました。

北大のTAは何をすべきか

TA研修会行われる

平成12年度のTA研修会が、4月5日(金)に行われました。TA研修会は今年で4年目で、全学教育にTAとして参加する大学院生を主な対象として、TAの資格を得るための研修の一部として全学教育の始まる直前に実施されました。

TAの対象科目が本年度から従来の実験・実習科目に加えて講義科目、一般教育演習および論文指導まで範囲が拡大しましたので、表2のようなプログラムを組みました。午前は、共通の講演のあとで、実験系と非実験系に分かれてそれぞれ講演・パネル討論などが行われ、午後には小グループに分かれてのグループ討論ののち、全体での発表・討論が行われました。研修会には、登録した約100名のうち約70名

が参加し、全学教育以外のTAが約10名参加しました。全プログラムに参加した59名の院生は次年度以降のTA研修が免除されます。

北大のTA制度はいまだ過渡期にあり、TAの業務の範囲などについても全学での一定の合意が成立するまでに至っていないという現状が、すくなくならずの混乱を引き起こしています。TA研修会を繰り返しておこなうことによって、まず全学教育からTAに関するコンセンサスができあがっていくものと期待されます。この意味で、以下に掲載する瀬名波氏の講演録は、北大のTAのあり方についての議論の出発点になるのではないのでしょうか。

表2 2001年度北海道大学TA研修会プログラム

日時：2001年4月5日（木）	
会場：高等教育機能開発総合センターE201（主会場）	
主催：高等教育機能開発総合センター	
<プログラム>	
9:15 受付開始	12:00-13:00 昼食
9:30 挨拶（5分）前出吉光（E201）	13:00 ミニ講義（15分） 「北海道大学の全学教育」小笠原正明
9:35 講演（25分） 「大学教育の基礎について」阿部和厚	13:15 ミニ講義（15分） 「グループ討論の方法について」西森敏之
10:00 実験系，非実験系に分かれる	13:30-14:30 グループ討論 (E202, E203, E204, E217, E218, E219)
・実験系（E201）	14:30-14:40 休憩
1) 講演（60分） 「学生実験指導とTAの役割」米山輝子	14:40-15:30 総合討論 司会：細川敏幸
2) 講演（30分） 「理科系の作文指導」小笠原正明	15:30 散会
3) グループ分け，役割分担（10分）	
・非実験系（情報教育館3Fスタジオ型中講義室）	午後部のグループ討論のテーマの例： (実験系)
1) 講演（30分） 「私のTA体験」瀬名波栄潤	・学生実験を安全に行うためにどのような点に注意すべきか？
2) パネル討論（60分） 和順（司会）	・学生実験で事故が起きた場合の対処でどのような点が重要か？
中戸川孝治（パネラー）	・学生実験において実験の原理をどこまで理解させるべきか？
太田敬子（同）	(非実験系)
橋本雄一（同）	・担当教官が授業中，ハラスメントを行った場合，どうするか？
河合 靖（同）	・授業中，たとえば小テストなどにおいて，不正行為を発見した場合，どうするか？
質疑応答（20分）	
グループ分け，役割分担（10分）	

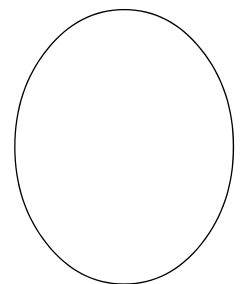
私の理想とするTA像

文学研究科助教授 瀬名波栄潤

はじめまして。私は今から10年以上前，アメリカの大学で語学のTAとしてドリルを担当しました。授業初日，学生で埋まっている教室を見た瞬間，地面が揺れて見えたことを憶えています。そのくらい緊張してTAを始めたのですが，とてもいい経験でした。今日は，私自身のTA経験と，北大でのTAとの授業を通して描いてきた，私の理想とするTAについて，その魅力と責任，そして具体的な仕事内容などをお話ししたいと思います。

魅力と責任

まず第一に，TAの魅力を充分満喫してください。現場での学生とのふれあいは収入以上の喜びを与えてくれます。北海道大学のようなトップ・クラスの大学の学生を対象にして皆さんが教壇に立つ，または，教室の中で作業をするという機会は滅多にあることではありません。TAを依頼



されたということは、皆さんは大学院生の中でも知識や能力においてエリートであるということです。これから皆さんが経験することは、皆さんが将来研究者や教育者として、また、社会人として仕事をするうえで、必ずプラスになります。事実、TAの経験は履歴書に書き加えることのできる立派なキャリアです。採用時の書類審査でも高く評価されるでしょう。私はTAを頼む時、「推薦状を書くときには、君がTAをしたこと、そして、一生懸命教育・指導に頑張ったことを書くからね。」とっております。

第二に、TAは準公務員的な責務を負っているということを十分に自覚して下さい。社会的、教育的、また人間的、道義的責任は大きいのです。TAは、家庭教師のような勉強を教えてくれるやさしいお兄さん、お姉さんとは違います。公的な場に適した服装をしてほしいですし、学部生に尊敬されるよう言動には十分注意してほしいと思います。何か問題を起こした場合、「北大の大学院生」ということではなく、「北大のTAが」ということになります。高等学校を終えて大学に入って来た学生は真っ白で、彼らの大学教育、大学経験はTAによって大きく左右されると言っても過言ではありません。TAがいい加減な態度で授業をすると学生もいい加減になってしまいます。北大全学教育の一部を担っているということを意識しながら取り組んでほしいと思います。

地位と役割

授業では学生が何と言っても主役で、学生をサポートする形で科目担当教官やTAがいます。では、TAはどこに位置するのか。学生と教官の間にいると考えられることもできますし、教官をサポートするのがTAという考え方もあります。大切なのは、教官と相談しながら、自分の役割を知ることです。TAと教官との関係についていえば、私は古いタイプのTA経験をしているので、TAのTは「手」を表し、Aは「足」を表す。つまり、TAは「教師の手足」ということが、強く染み込んでいます。TAという時代は私にとっては、丁稚の時代でしたから、「とにかく、先生が学生のためによりよい授業をするためならば、何でも

する」という気持ちでした。今日は何をするのかとか、何をしてはいけないのか、そのクラス運営のために自分はどこに出番があって、その時には何をすればいいのかをしっかりと認識する必要があります。そのために、担当教官とのコミュニケーションとパートナーシップをしっかりと築く努力をして下さい。

ところが、教官の中には、過剰な要求をしたり何か問題を起こす人もいるかもしれません。教官とTAというのは密接になればなるほど、微妙な関係になる可能性もあります。そういう場合は、黙ってはいけません。自分がTAとして、不当な扱いを受けていると思った時には、ちゃんと自分の権利を主張して下さい。

主役である学生との関係も難しいでしょう。一方では教師としてのプロフェッショナリズムが求められます。新しい技術、知識等を与える立場としてしっかりと理性的に対応しなければなりません。けれども、ロボットではいけません。学生一人一人と人間的な結び付きを築く必要もあります。留学時代、英語教育の教授が、「いろんな教授法があるけれども、今まで確立されたものはないし、これからはないだろう。そのかわり一つだけ学生の動機づけを高めて一生懸命勉強させるものがある。それは何か。教師の愛だ。」と言われました。平等かつ公正に学生と接することと同時に、公私混同しないこと、そして教育者としての愛情が大切です。

教官や学生との接し方などで問題が出てきた場合は担当教官に相談し、そこで解決できない時は学内の他のレベルに相談することをお勧めします。

勤務時間と仕事内容

勤務時間については、クラス運営のためのベストな選択をして下さい。授業時間だけ働けばいいわけではありません。その日の授業の内容によっては早めに来ておく必要があるかもしれませんし、一方、全然仕事がない日があるかもしれません。科目担当教官とよく相談して、自分はいつからいつまでいたら役に立てるのかということを確認してその指示に従って下さい。理想を言えば、授業参観を勧めます。

また、実際の勤務時間以外にもオフィス・アワーを設けておくと、学生からの質問にもすぐ対応できます。

仕事内容に関しては、担当教官に何をすればよいのかを確認し、その指示に従ってください。「自分はTAだ。今日は自分が主役になって頑張るぞ。」というのではいけないのです。

事前準備 TAの仕事は、授業の前から始まります。担当教官と授業内容を打ち合わせ、使用する資料や機材が分かったら、自分なりのレッスン・プランを作ってみてください。「今日はこういった話をするんだな。そして、メインはこれだな。」授業の流れとポイントを簡単に書いておく。そうすると、授業全体を把握しながら行動することができます。

コピーをしたり、資料を作成する作業もあります。コピーについては、絶対ミスのないよう心がけてください。私はTA時代、コピーなら誰にも負けないTAになろうと思っていました。朝、大学へ行くとすぐ、担当教官に何かコピーするものはありませんかと尋ね、あれば間違いのないようにコピーして5分以内に持って行きました。お蔭で、今でも、コピーだけは誰にも負けないスピードがあると自負しています。OHP、カセット・プレーヤー、コンピューター等の機材を使用する場合は、教室に必要な機材が備わっているのかどうかを調べ、なければ必要なものを予約して持って行きます。

授業開始前 授業にTAが遅刻して行くことがあってはいけません。5分前には教室に入り、授業の雰囲気を作り出すようにして下さい。前の授業の先生が教卓を汚していたり、黒板に板書したままで出ていったりすることもありますから、授業環境を整えたり使用機器をチェックする時間もとれます。また、学生に前回の授業について雑談的な話をしてフィードバックのような形で休み時間を効果的に使うと、授業開始後の雰囲気に差が出ます。

授業開始時 出席点検。スムーズな出席点検方法を考えて下さい。「自分は500人規模のクラスの出席取りなら、誰にも負けないTAだ。」というふうな自負を持って取りかかるのもいいかと思います。

授業中 授業では、TAは補助で、学生が主役です。授業が効果的に進行するよう、学生に考えさせたり、動機付けする助言を与えることが大切です。語学のTAの例になりますが、今までに習ったことのないような単語を使って指導したり、まだ習っていない文法事項をいきなり、「この方がわかりやすいから」と、TAが教えてしまうようなことは避けて下さい。グループまたは個人で、作業をするような場合、一人、または一つのグループに対する時間配分にも気をつける必要があります。一つのグループに対してずっと付ききりで、気がつくと、他のグループに回れなかった。そうすると、「自分たちには興味を持ってくれなかった」という印象をその学生達に与えるかもしれません。

授業後 担当教官によっては、クイズ(小テスト)の採点や提出させた論文の評価という作業をTAに依頼してくると思います。そういう仕事が大部分を占めるかもしれません。その場合も、自分の基準で評価してはいけません。ちゃんと教官と評価基準、つまり論文や試験の狙いや配点方法等を十分確認した上で始めてください。できれば、いくつか平均的なものを実際に教官に見てもらい、そのサンプルを元に採点してゆくということも一案かと思っています。そして、評価が終わったら、さっさと教官に返すのではなく、グループ全体、クラス全体の成績状況なども出来れば書面で、教官に伝えて下さい。そして、「A君は最近、成績落ちぎみですね。クラス全体としてはこの問題が難しかったようです。」そういった一言を添えます。すると、担当教官は直接評価はしていなくても、クラス全体や学生個人の習熟度を容易に知ることができます。結果として、「今回は何番の問題が難しかったようだから、もうちょっと、復習してみようか」とか、学生個人に対しては、「君、最近ちょっと、成績悪いようだけれどどうしたの。」などと、教官やTAが一人一人の学生に対してケアしてくれているという授業環境を作り出すことになります。教官とTAのコミュニケーションとパートナーシップが、学生の目の輝き度を変えていきます。

助言と指導

学生に対しては、いろんな助言の方法があると思います。学生が一生懸命考えているのだけれどうまく表現できないような場合、「君が言おうとしていることは、こういうことかな」と、パラフレーズしてあげる。そうすると学生は自分が言わんとしている内容をTAに言い換えてもらうことによって、自分の考えにすごく自信を持ちます。そして、それを自分の言葉にしてさらに向上していきます。

一方、TAは友達であってはいけません。言葉使いは丁寧に。否定的な話し方もいけません。「この前やったのにもう忘れたの。」と言ったら、最悪ですね。そういう場合は、肯定的な表現をするよう努力してください。「この前の授業でやったけど、難しかったね。」という形で話をして、もう一度説明したり考えるポイントを提供してはどうでしょう。

板書ですが、口頭で説明しても板書はするようにしてください。耳で聞いて理解してそして、板書することによって学生は家に持ち帰っても、ちゃんとその内容が理解できます。きたない字も丁寧に書けば読んでもらえます。機器使用に関しては、授業の流れを止めないようスムーズに行ってください。

また、新米のTAにとって、学生の反応は気になるところでしょう。そこで、よりよいTAになるためにも学期途中で学生にTA評価を簡単に無記名でもらうのはどうでしょう。多少傷つくコメントもあるでしょうが、それを克服してさらに立派なTAになるのです。

TAティップス

さて、TAティップス (tips : 助言, ヒント) というものを表3に作ってみました。TAとして「べき・べからず」をリストアップしたものです。今日話したこと以外に重要なことを最後にいくつか話したいと思います。

教官への敬意の念 まず、是非心がけて欲しいのは、科目担当教官への敬意の念を持ち続けることで

す。教官には否定的な意味でも様々なタイプがあり、TAとして不満を感じることもあるかもしれません。けれども、そういった批判的な態度をTAが学生の前に見せたら、クラスが崩壊してしまいます。これは一番いけないことです。教官への敬意の念というのは、学生にちゃんと見せる必要があります。

笑顔とユーモア TAが暗い顔をして緊張していると学生も堅くなります。学生の側に立った視点というものを大切にして、自分と学生を励ましてください。また、学生全員の名前を憶えるのは大変なことです。是非努力してください。名指しと指さしでは全然効果が違いますし、たとえ大人数のクラスでも、学生との関係は1対1が理想です。

守秘義務 TAは、学生が他の人々に知られたくない情報を知る立場にあり、成績評価も含めて、パワーを持った存在です。守秘義務を遵守して下さい。学生のプライバシーを尊重し、よりよい信頼関係を築く基盤がこれです。

やってはいけないこと まず、学生という大学での弱者に対する差別的な言動です。学生の肩に触れるなどのセクハラ的な行為は絶対やめてください。同様に、一部の学生の能力や態度に対するフェバリティズム、いわゆる、^{ひいき}偏袒的な対応にも学生はすごく敏感です。一部の学生に対して「君はこういう性格的だから、わからないんじゃないの。」というような人格を否定するような発言もしないように。

最後にまとめさせてもらいますと、「TAという選ばれた者のキャリアを満喫してください」ということでしょうか。大学院生という研究者の卵が、教育者としての自覚に目覚めるのがTAなのです。最初は戸惑うこともあるでしょうが、学生や教官に指導を受けながら自分の理想とするTAを目指してください。選ばれた院生・TAとしての経験は、素晴らしい思い出になると思います。ご健闘をお祈りします。

(この記事は、TA研修会における「私のTA体験」と題する講演に基づいたものです)

表3 TAティップス

Dos (すべきこと)		
役割確認	学生の名前を覚える	ていねいな言葉遣い
明確な説明	きれいな字で板書	板書と口頭による説明
機器の操作能力向上	科目担当教官への敬意の念	笑顔とユーモア
学生への敬意の念と愛	平等と公正	肯定的な表現
勤務内容の限界	時間厳守	秘守義務
授業内容の熟知(授業事項のメモ・授業参観)		
Don'ts (してはいけないこと)		
セクシャルハラスメント	差別的表現・言動	
なれなれしい言葉遣い	否定的表現	
的を得ない表現	資料を読むだけの説明	
授業の進行状況を先取りした説明	一部の学生(の能力や態度)に対するひいきや批判	
学生に向けての科目担当教官批判		

センター CENTER

6月7日に新任教官研修会

今年度の新任教官研修会が6月7日(木)の開学記念日に行われます。対象は、昨年6月以降に本学に赴任された教官全員です。この研修では、北大の理念や将来像、倫理規定など北大教官に必須の事項が紹介されます。さらに、北大らしい教育の具体的方法について全員で考えます。新任以外の教官も参加できますので、あらかじめご連絡下さい(高等教育機能開発総合センター Tel: 706-7520)。

日時：2001年6月7日(木)
会場：情報教育館3Fスタジオ型多目的中講義室
主催：高等教育機能開発総合センター

<プログラム>

9:15 受付開始

9:30 挨拶：中村睦男(総長)
9:40 講演：「北大の教育 これまでとこれから」
徳永正晴(副学長, センター長)
小笠原正明(高等教育開発研究部長)
10:50 休憩
11:00 講演：「国家公務員として知っておくべきこと(仮題)」
畠山武道(法学研究科長)
11:30 講演：「大学教育改革の現状」
阿部和厚(入学者選抜企画研究部長)
12:00 昼食
13:00 ミニ講義「双方向的授業の実際について」
細川敏幸(高等教育開発研究部助教授)
13:15 グループ討論
14:30 休憩
14:40 総合討論
司会：西森敏之(高等教育開発研究部教授)
15:30 散会

高等教育

HIGHER EDUCATION

高等教育フォーラム開催される

3月26日(月)の午後、情報教育館4F共用多目的教室(2)において、下記のテーマで高等教育フォーラムが開催されました。

1) 1970年代から1990年代の高等教育政策

東京大学総合教育研究センター 助教授 小林 雅之

2) ティップス先生の運用とその成果

名古屋大学高等教育研究センター 教授 池田 輝政

3) 授業改善の試み：初年次教育における電子会議室(BBS)の活用

九州大学大学教育研究センター 助教授 長野 剛

4) 全学共通教育と関連した学生相談活動

九州大学大学教育研究センター 助教授 田中 健夫

小林助教授は、1971年の中教審46答申から2000年の大学評価・学位授与機構の創設まで、大学評価の歴史的経緯を解説し、日本の大学評価が1990年代に

なっていかに発展してきたかを詳説しました。

池田教授は、名古屋大学で1000万円近い費用を投入して作られた、授業デザインのためのホームページ「成長するティップス先生」の開発から利用状況までを解説しました。

長野助教授は、120名の大講義「コミュニティ活動の心理学」に電子会議室を利用した経験を紹介しました。大人数教育での学生参加型教育がBBSを利用することで可能になってきたそうです。

田中助教授は、年間200名を超える学生が訪れる九州大学の修学相談室の現状を報告しました。3名の臨床心理学を専門とする常勤教官は、相談を受けるとともに講義も開講しており親しみやすい環境を作っています。新しい特徴を持つ学生をどう取り扱えばよいかが討議されました。

生涯学習

LIFELONG LEARNING

大学インターンシップ研究会開催される

3月8日午後1時30分から、情報教育館において、同志社大学商学部教授の岡本博公教授を迎えて、大学インターンシップ研究会(主催：生涯学習計画研究部、企画：小出達夫生涯学習計画研究部長、濱田康行経済学部教授、下田浩北海道経済産業局サービス産業係長)が開催されました。

岡本博公教授は、「京都におけるインターンシップの現状 - 同志社大学と“大学コンソーシアム・京都”の事例から - 」をテーマに報告されました。単位互換から始まった大学間連携が、財団法人「大学コンソーシアム京都」に発展する過程において、インターンシップ研究会が発足し、インターンシップ

が大学の<教育プログラム>として位置づけられ、企業やNPOの参加・協力を得て実現したこと、その中で学生がどのような感想をもち、今後どのような課題があるかなどについて話されました。

この報告を受けて、小出達夫生涯学習計画研究部長が北海道大学におけるインターンシップの現状や生涯学習計画研究部として実施したコンソーシアム京都や立命館大学、京都大学などの調査を踏まえて論点を整理し、討論を行いました。討論には、企画者の他に、小樽商科大学、北見工業大学、帯広畜産大学、北海道東海大学、札幌学院大学、千歳科学技術大学、北星学園大学などが参加しました。

生涯学習計画研究部客員教授に 丸山文裕氏（梶山女学園大学教授）

平成13年度の生涯学習計画研究部客員教授（第1種）に、梶山女学園大学の丸山文裕教授が決まりました。丸山教授は、大学財政論、大学教育論の研究分野で高い評価を受けている研究者で、「私立大学の財務と進学者」（東信堂1999）等の著書も刊行されています。本学では、現在研究部が取り組んでいるCapstone Programあるいはインターンシップなどと関連して、丸山教授のアメリカ大学教育改革につい

ての豊かな知見をもとにした研究を深めたいとのことです。また専門の大学財政論とも関わって、現在進行中の「国立大学の独立行政法人化」の問題について、財政面からどのような課題があるのか等について、研究してみたいということでした。「国立大学の独立行政法人と財政問題」については、丸山教授の着任後研究会等を開催し、本学におけるこの課題での議論を深めることを計画しています。

入学者選抜

ADMISSION SYSTEMS

北大から新しい能力評価方法を

高等教育機能開発総合センター助教授 池田 文人

ソクラテスは弟子に質問を繰り返した。弟子が回答し、それに対してさらに師は質問する。師が質問できなくなってはじめてその対象について真の知を弟子が獲得できたと師は判断した。

このような評価方法は現在のあらゆる能力評価方法に受け継がれています。問題は、ある知識を獲得するまでの学習プロセスを十分に評価できないことです。想像するに、ソクラテスの弟子たちは師の質問に対する回答に窮すると、師の質問に回答すべくさらに知見を広め、師から発せられるであろう質問を想定しながら知識を深めていった、こうした弟子たちの学習プロセスを見てソクラテスは弟子たちの能力を評価していたと思います。

今後のAO入試に求められるのは、入学後でも十分習得可能な知識や技能だけではなく、学習プロセスを見ることによるのみ判断できる学問等に対する

意欲や持続力、思考パターン、対人関係などにおける特性を評価していくことだと考えています。このような特性に北大のオリジナリティを盛り込むこと、そしてそのような特性を評価する仕組みを開発すること、これが私の仕事だと思っています。

4月に赴任してきたばかりですが、開拓者精神と温厚な誠実さとを強く感じます。こうした北大の優れた特性をAO入試に盛り込んでいけるよう尽力する所存です。雪や寒さに関することも含めて、御指導御鞭撻のほどお願い申し上げます。

（池田文人氏は、2001年4月1日に入学者選抜企画研究部に専任教官として赴任しました）

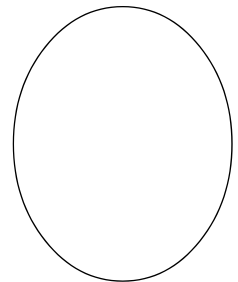


表4 2001(平成13)年度入学者選抜企画研究部研究員名簿

入学者選抜企画研究部 22名
(学内19名)

氏名	所属	専門分野	研究テーマ
和順	文学研究科教授	中国文化論	入試改革研究会
中村 研一	法学研究科教授	国際政治	同上
佐々木隆生	経済学研究科教授	国際経済学	同上
工藤 昌行	工学研究科教授	凝固, 材料組織学	同上
斉藤 裕	農学研究科教授	生物生態学	同上
尾島 孝男	水産科学研究科助教授	応用生物学	同上
小内 透	教育学研究科助教授	教育社会学	入試広報とAO入試募集戦略の効果的な在り方について
小川 浩三	法学研究科教授	法史学	同上
寺沢 浩一	医学研究科教授	法医学	同上
山本 眞史	工学研究科教授	物質情報エレクトロニクス	同上
伊藤 和彦	農学研究科教授	生物生産工学	同上
栗原 秀幸	水産科学研究科助教授	応用生物科学	同上
磯田 豊	"	海洋物理学	同上
瀬名波栄潤	文学研究科助教授	西洋文学	高校間格差に関する研究 - 北海道大学一般入試「英語」の成績の分析から -
佐藤 公治	教育学研究科助教授	発達心理学	同上
林	法学研究科教授	商法	同上
小泉 均	工学研究科助教授	放射線化学	同上
長南 史男	農学研究科教授	農業経済学	同上
山本勝太郎	水産科学研究科教授	生産システム学	同上

(学外3名)

氏名	所属	専門分野	研究テーマ
玉田 茂喜	北海道札幌北高等学校教諭	国語教育	入試改革研究会
西嶋 潤一	北海道旭川東高等学校教諭	地歴・公民教育教育	同上
越前屋夫	北海道札幌月寒高等学校教諭	英語教育	同上

二カ国語版

「コアカリキュラム」ガイドブックが完成

平成12年度教養教育改善充実経費の助成を受けて、
『北海道大学の教養教育について－コアカリキュラムとは何か？－』が新年度の開始にあわせて発行され、新入生全員と助手以上の教官に配布されました。
この冊子は、全学教育委員会の小委員会の協力で作られたもので、本学の質の高い教養教育の理念と内容を日本語と英語でわかりやすく紹介しています。
教養教育の意義やメリット、社会的貢献、将来の展望などを、国内外にアピールするため、大いに利用されることが期待されます。

学会案内

CONFERENCES

日本高等教育学会第4回大会 新しい大学教育の設計

日本高等教育学会第4回大会が、5月25日（金）～26日（土）に北海道大学情報教育館（本センター南隣）で開催されます。本センターの専任教官を中心とする実行準備委員会（委員長 阿部和厚医学研究科教授・入学者選抜企画研究部長）は、標記の全体

テーマを提案して開催準備を進めています。21世紀の日本の大学のあり方、各大学の教育改革の方向性を知る貴重な機会です。多数ご参加くださいますようご案内いたします。

表5 日本高等教育学会第4回大会日程

自由研究発表 5月25日・26日 国際動向、政策、財政、入試、進学、カリキュラム、授業分析・開発、社会連携、学生論 42題	標を達成するためには、組織的な教育戦略と連動した授業改善が必要である。ここでは授業改善のための具体的な方略を検討します。
課題研究発表 5月25日 15:30～18:00 1. 高等教育改革の世界的動向 グローバル化への対応（3F スタジオ型多目的中講義室） 安原義仁（広島大学） 江原武一（京都大学） 苑 復傑（メディア教育開発センター） 吉川裕美子（大学評価・学位授与機構） 司会 館 昭（大学評価・学位授与機構） 2. 労働市場と大学教育（6F 大講義室） 吉本圭一（九州大学） 粒来 香（東京工業大学） 小方直幸（広島大学） 討論者 矢野真和（東京工業大学/東京大学） 司会 荒井克弘（東北大学）	上級生による指導 オリター制度 藤岡 惇（立命館大学） 授業法指導 ティーチング・ティップス 池田輝政（名古屋大学） 基幹総合大学における芸術科目 齊藤紘一（東北大学） 小グループ学習方式学生参加型授業の推進 阿部和厚（北海道大学） 社会連携授業 山本眞樹夫（小樽商科大学） 理科教育におけるグループ別課題研究 渡辺儀輝（南茅部高校） 司会 小笠原正明（北海道大学）
公開シンポジウム 5月26日（土）14:00～16:40 （無料：一般公開） （3F スタジオ型多目的中講義室） 「大学の授業を設計する - 組織的な取り組みから - 」 教育改革の最前線は、教員と学生とが接触する授業にあります。それぞれの大学が教育目	大会事務局 北海道大学高等教育機能開発総合センター 日本高等教育学会第4回大会実行準備委員会 電話 011-706-7520 ファックス 011-706-7521 Email : thoso@high.hokudai.ac.jp home page: http://socyo.hokudai.ac.jp

センター日誌

CENTER EVENTS, Feb. - Mar.

2月

- 8日 ・ 第37回センター運営委員会
- ・ 高等教育開発研究部訪問：岩手県立大学AO
オフィス伊藤慶明助教授以下3名
- 13日 ・ 第20回公開講座専門委員会
- 15日 ・ 第37回全学教育委員会
- 16日 ・ 予算施設委員会小委員会
- ・ 高等教育開発研究部訪問：大阪外国語大学
藤井章吾助教授以下4名
- 22日 ・ 第79回全学教育委員会小委員会
- ・ 第22回予算施設委員会
- 23日 ・ 第60回センター教官会議
- 25日 ・ センターニュース第34号発行
- 27日 ・ 第38回センター運営委員会

3月

- 9日 ・ 第38回全学教育委員会
- ・ 第80回全学教育委員会小委員会
- ・ 第21回公開講座専門委員会
- 14日 ・ 第39回センター運営委員会
- 19日 ・ 高等教育開発研究部訪問：信州大学玉木氏
- 22日 ・ クラス担任全体会議
- 23日 ・ 高等教育開発研究部訪問：大分大学生涯学
習教育センター岡田正彦助教授
- 27日 ・ 高等教育開発研究部訪問：琉球大学教育学
部関根秀臣教授

行事予定

SCHEDULE, May. - Aug.

	【日(曜日)】	【行事】	【備考】
5月	上旬～下旬	定期健康診断	
6月	7(木)	開学記念行事日	休講
	7(木)～10(日)	大学祭	休講
7月	19(木)	第1学期授業終了	
	23(月)～25(水)	補講日	
	26(木)～8月7(火)	定期試験	
8月	8(水)～10(金)	追試験	
	30(木)正午	定期試験及び追試験成績提出締切	
	8(水)～9月26(水)	夏季休業日	

編集後記

21世紀に入って最初の新生を迎えて、高等教育機能開発総合センターは活気に満ちている。邦訳「現代アメリカ大学生群像」の中で、A. レヴィーンとJ. S. キュアトンは、消えゆく古い世界と生まれ出る世界の二つに引き裂かれた状態にある「過渡期世代」には、次の4つを提供できる教育が求められていると提言。希望、責任感(他人のために何かをする)、差異の理解、変革への力(何かを変えることができるという確信)。新生が、本学のコアカリキュラムを通じて成長する姿を見守りたい。(碧)

センターニュース 第35号

(北海道大学高等教育機能開発総合センター広報誌)

発行日：2001年4月25日

発行元：北海道大学高等教育機能開発総合センター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

電話(011)716-2111・FAX(011)706-7854

編集委員：小笠原正明・西森敏之・細川敏幸・

町井輝久・植木迪子・鈴木誠・山岸みどり

ご意見、お問い合わせは 印の編集委員まで

電話：(011)706-7514; FAX(011)706-7521

インターネット ホームページ：http://infosys.academic.hokudai.ac.jp/center